

平成31年4月部長会議 会議録（要旨）

◇日 時 平成31年4月2日（火） 午前9時05分から午前10時35分

◇場 所 市役所第一庁舎5階 庁議室

◇出席者 市長、副市長、教育長、上下水道事業管理者、総務部長、企画政策部長、財政部長、地域・市民生活部長、保健福祉部長、保健所長、こども未来部長、環境部長、商工観光部長、文化スポーツ振興部長、農林部長、建設部長、都市整備部長、会計局長、教育次長（行政及び教育）、上下水道局長、消防局長、議会事務局長、危機管理防災監、公有財産活用局長、市長公室長及び関係課職員

◇会議内容

<市長あいさつ>

- ・新年度を迎え最初の部長会議となる。それぞれの分野で力を遺憾なく発揮して、長野市をけん引して行ってみたい。
- ・昨日、新たな元号を「令和」とすることが発表された。5月1日の改元に向け、市民生活に影響が出ないよう事務を進めていきたい。
- ・仕事はスタートから1か月が勝負なので、前例踏襲に陥ることなく、おかしいと思ったことはすぐに直すよう心掛けてもらいたい。
- ・長野市は情報発信が弱いように感じる。長野市が取り組む仕事を積極的に市民の皆さんに伝えることも重要であるので、積極的な情報発信に取り組んでもらいたい。
- ・働き方改革として、仕事のやり方を徹底して見直す必要がある。
- ・人口減少対策については、平成32年社会増減の移動均衡に向け、全庁的に取り組んできており、人口減少に必ずつながっていくと考える。

1 報告事項

（1）平成31年度 部局横断的案件的取組について（企画政策部）

標記事項について、企画政策部長から報告を行った。（資料1参照）

○質疑

〔財政部長〕部局横断案件的の検討をもっと効率的に行う必要があると感じる。また、予算にからむ案件については概算要求の段階で情報提供してほしい。AIを活用した事業についても部局横断で進めていく必要があると考えるが、市長公室が旗振り役を務めて推進してほしい。部局横断案件として子育て支援に取り組み施策が充実してきているが、情報発信が弱いのでもっと積極的に情報発信する必要があると考える。

〔企画政策部長〕部局横断案件的の検討は速やかに行い、固まったところから情報提供していきたい。AIの活用については、Society5.0時代といわれており、各部局で取り組んでいるが既存の組織を活用しながら進めていきたい。子育て支援については、施策のPRが十分でない面があるので、移住者向けのパンフレットによるPRなどを考えている。

（2）平成31年度 予算執行方針について（財政部）

標記事項について、財政部長から報告を行った。（資料2参照）

○質疑

〔副市長〕財源については、国の予算を積極的に獲得するという姿勢が必要。従来は、国が制度設計した補助制度のどれが使えるかという発想だったが、今では、自治体側から積極的に良い提案をすれば国はそれを予算化してくれるというふうになってきている。長野市にとって良い事業、やらなくてはならない事業については、国にどんどん訴えていくという考え方で臨んでほしい。

2 協議事項

(1) 第7次長野市行政改革大綱実施計画について（総務部）

標記事項について、総務部長から説明し、協議を行った。（資料3参照）

○質疑なし

○今後の方向性

原案を了承。

(2) 長野市公共施設個別施設計画【市民プール編】について

（文化スポーツ振興部）

標記事項について、文化スポーツ振興部長から説明し、協議を行った。（資料4参照）

○質疑

〔財政部長〕経費削減のため25メートルプールに改修して存続してほしいという市民意見に対しての長野市の考え方を分かりやすくすべきではないか。

〔文化スポーツ振興部長〕新たな改修は難しいことや、50メートルプールでも25メートルプールでも維持経費はさほど変わらない面もあるので表現は検討する。

〔市長〕学校プールと市民プールの利用調整はできているのではないか。

〔文化スポーツ振興部長〕学校プールは市民開放しない。学校の水泳の授業を市民プールで行うという方向で教育委員会事務局と検討している。

〔市長〕学校プールの方向性を出していく必要があるのではないか。

〔教育長〕学校での水泳教室は、水難事故から生命を守るということを第一の目的として行っている。学校プールを廃止し公共プールに移行するという方向にすり合わせをしていく。

〔市長〕学校での水泳教室に民間のスイミングスクールを活用するなど、思い切った対応も考えていったほうがよい。紫外線対策やプール監視の負担など課題が多いので検討を進めること。

〔副市長〕屋内プールのサンマリーナがのは利用料金が高いという声もあるが、経営状況はどうか。

〔文化スポーツ振興部長〕夏場の入場者数は好調であるが、オフシーズンは入場者数が落ちる。

〔副市長〕割引料金を導入したりしているが、サービスレベルが高くないのではないか。指定管理者に管理させているので、もっとアミューズメント性を上げるべきと考える。

〔文化スポーツ振興部長〕指定管理者には工夫して管理してもらっているが、秋以降の落ち込みが厳しい。健康志向に訴求したサービス提供やシニア世代の平日昼間の利用促進などの対策を考えていきたい。

〔副市長〕温湯温泉「湯〜ぱれあ」ではシニア世代向けプログラムが好評を得ている。そうしたサービスを参考に検討する必要がある。

○今後の方向性

原案を了承。

(3) 全国中学校スケート大会の継続開催について（文化スポーツ振興部）

標記事項について、文化スポーツ振興部長から説明し、協議を行った。（資料5参照）

○質疑なし

○今後の方向性

原案を了承。

(4) 下水道事業経営戦略（案）について（上下水道局）

標記事項について、上下水道局長から説明し、協議を行った。(資料6参照)

○質疑なし

○今後の方向性

原案を了承。

3 その他

(1) 「(仮称) 長野地域経済けん引プロジェクトチーム」の設置等について

(企画政策部)

標記事項について、企画政策部長から説明を行った。(資料7参照)

○質疑

[財政部長] プロジェクトチームの推進体制について説明があったが、企画政策部はどのように関与するのか。

[企画課長] 事務局として企画課と人口増推進課が入る。企画政策部長が全体の総括というかたちで関わるようになる。

[財政部長] 関係部局が責任をもって実施すると思うが、企画政策部がとりまとめをしないとうまくいかないのではないかと。

[企画課長] 検討の段階から一体となって関与していきたい。

[財政部長] 責任体制を明確にしておいてほしい。

[副市長] 外部人材の活用方法はよく考えなければならない。長野圏域全体を範囲としてしまうと、話がいたずらに広がってプランを作っただけで終わってしまい、個別具体的な成果が上がらないおそれもある。テーマを絞り込まないと、実効性が上がらない。

[商工観光部長] 産業振興ビジョンは既にあるので、戦略マネージャーには具体的なミッションを与えて実効性を上げる仕組み等を考えていただければよいのではないかと。

[企画課長] 近隣市町村の雇用・教育の受け皿となっている、本市の経済基盤の底上げを目指すものであり、様々な課題からミッションの絞り込みをしていきたい。

[副市長] 周辺自治体の職員がチームに入ると、長野市の個別的な課題への取組がやりづらくなるのではないかと。

[企画課長] 周辺自治体の職員は連携担当職員としてチームに加わる。

[副市長] 周辺自治体職員はプロジェクト(分野ごとのワーキング)には入らないということか。

[企画課長] そうである。

[副市長] チームを2階層にしておかないと、ミッションの絞り込みにも支障があると考えます。

[市長] 全国の自治体で同様の取組をしているか。

[企画課長] 中核市では、平成30年度に福山市が取り組んでおり、長野市は2番目になると思う。

[市長] 他の中核市ではあまりやっていないということであるので、長野市らしいミッションを思い切ってやっていいと思うが、ミッションを遂行していけるマネージャーを選考しなければならない。福山市ではどのような状況か。

[企画課長] 当課職員が福山市に赴いて調査したが、課題に対して外部人材の新たな視点での提案を基に事業化を進めるなど、非常に前向きに取り組んでいた。

[副市長] 課題に対して外部人材を登用して解決を図るものであるが、戦略マネージャーにどのような機能を求めるかが重要である。単にプランを作っただけで終わらないようにしなければならない。

[企画部長] ビジョン策定だけでなく、具体的な事業化、例えばモデル的に実証実験を行うなど成果が見えるものにした。

(2) 大型連休中の臨時受付の開設について(地域・市民生活部)

標記事項について、地域・市民生活部長から説明を行った。(資料8参照)

○質疑なし

以上